

モデル経営体名：株式会社マルチファーム（深谷市）

展開：露地野菜の産地の強化に係る展開

経営概要 17ha（畑：17ha）ミニトマト：6,135㎡、こまつな：9ha、ねぎ：5ha、たまねぎ：4ha、ブロッコリー：4ha、えだまめ：3ha、その他：0.9ha（カリフローレ、おかひじき、ミニはくさい）
うち実証面積 5.5ha ブロッコリー、カリフローレ、ミニはくさい

導入技術①直進アシストシステム搭載トラクタ・井関農機（株）・NTA365FFZGQCY

②うね内部分施用機・井関農機（株）・UBS215G

③うね内部分施薬機・井関農機（株）・XS-R4G-6-UBS

①



②、③



実証の状況

①実証の目的

直進アシスト機能付きトラクタとうね内部分施肥施用機導入によるブロッコリー等における成型・施肥・施薬同時処理による省力化及び作業状況の可視化

②実証状況

直進アシスト機能付きトラクタとうね内部分施肥施用機を活用した実証を行った。

作業は、うね立て同時部分施用機による基肥散布で作業を省略し慣行の「基肥散布→耕うん→畝立→定植」の一連の作業を、実証の「耕うん→畝立+施肥→定植」では作業時間を約37%削減した。

施肥量は、化成肥料10aあたり40kg（N成分9kg）で、導入前の10aあたり160kg（N成分で18kg）の半分に減肥できた。

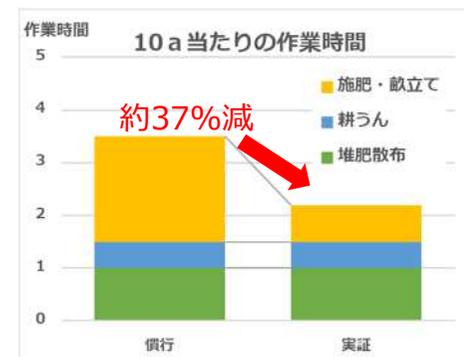
今年度実証では、機械の操作性を確認し、次年度は、全面施肥と生育及びコストの比較分析を行う。

③モデル経営体の感想

- ・施肥量が少なくて済んだため、作業が楽であった。
- ・直進アシスト機能付きトラクタにより畝立て作業が直線的になったため、生育期中耕など管理が楽だった。操作性も良く、今年度は社員1名が大型トラックで搬送し、施肥・畝立て作業まで一人で行えるため、労働人数の削減が可能になった。



施肥・畝立て作業と定植



堆肥散布から畝立てまでの作業時間(hr)